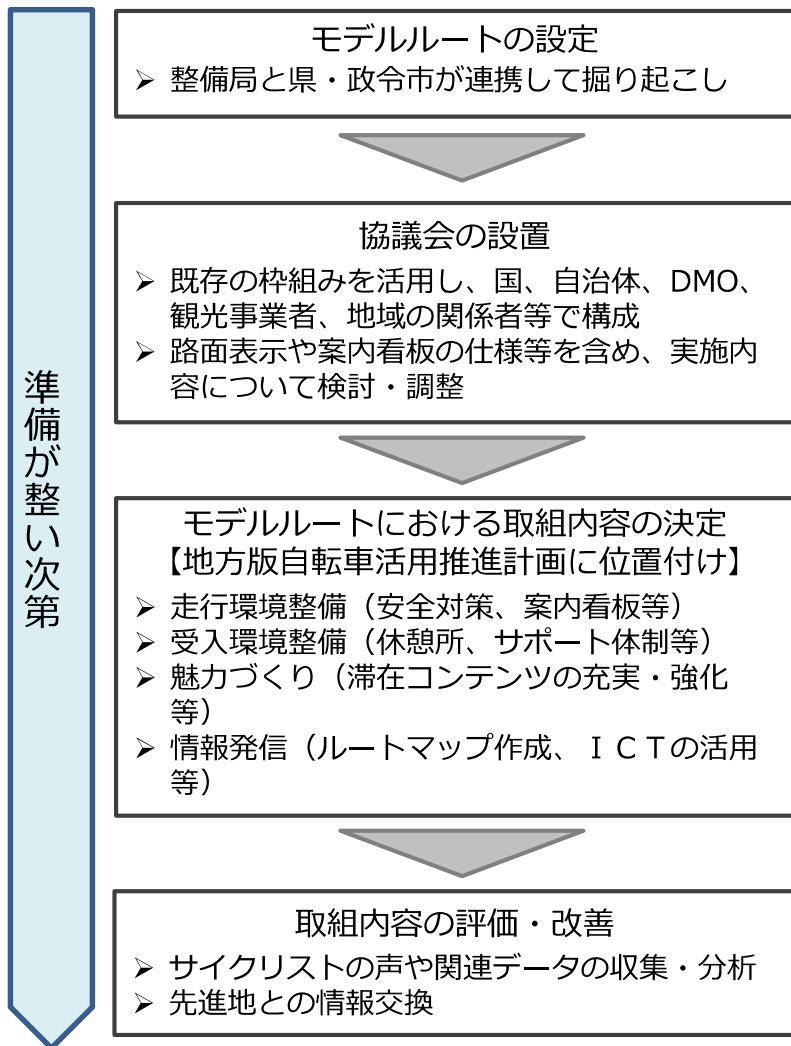




## ■ 取組みの進め方




## ■ モデルルート設定の考え方


- 複数の市町村に跨がる等、広域的なルートであるか
- サイクリストを惹きつける魅力や、価値創造の素地があるか
- サイクリストの支援に向けて、地域の関係者の協力が得られるか


## ■ サイクリング環境向上策の例

- ・トイレ/給水
- ・入浴やシャワー施設
- ・おしぼりの提供
- ・観光パンフレットやサイクリングマップの設置




- ・サイクルスタンド
- ・メンテナンススペース
- ・工具/空気入れの貸出
- ・レンタサイクル
- ・ロッカー（一時荷物預り）



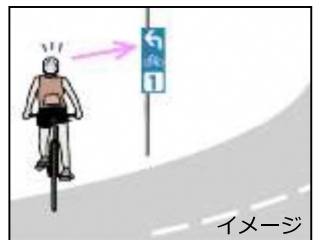


イメージ

<路面表示>



- ・日除けのある屋外の休憩スペース
- ・長時間利用可能な駐車スペース



イメージ

<案内看板>

<道の駅のサイクリング拠点化>

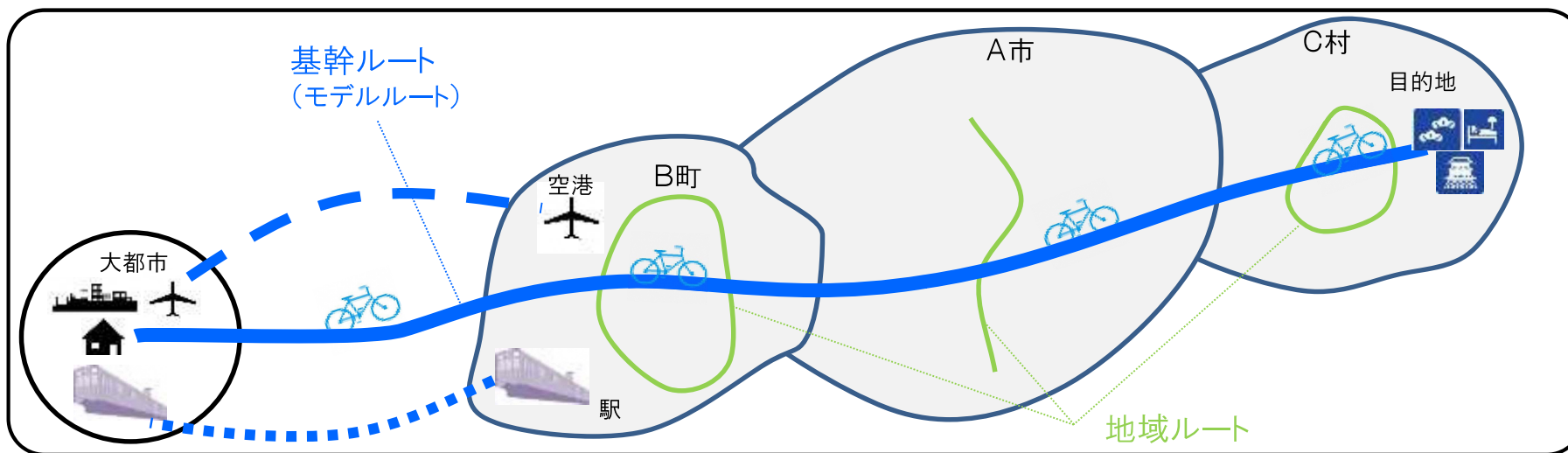
アクセス方法、コース難易度、レスキューサービス、ガイドツアー、交通ルール等、サイクリストの視点に立った情報発信（多言語対応）

# モデルルート設定の考え方



○モデルルートは、試行への協力を得られる地域の活動主体が存在するとともに、市町村をまたぐような骨格となる「基幹ルート」となるよう設定。

	基幹ルート(モデルルート)	地域ルート
特徴	市町村をまたぐような骨格となるサイクルルート	(基幹ルート周辺の) 地域の短距離のサイクルルート
コンセプト	空港や駅、大都市と目的地を結び、安全・安心に移動できる (案内や休憩等施設が整っている)	基幹ルートから離れているビューポイントなど、隠れた地域資源を楽しめる



○試行を行う箇所(モデルルート)は、基幹ルートや試行の内容を踏まえ、下記を満たすように設定

- ① モデルルート試行への協力を得られる地域の活動主体が存在  
(受入環境の充実や情報発信のためのデータ収集、アンケートの実施等)
- ② 市町村をまたぐような、骨格となるルート(基幹ルート)であること